

令和5年度国有林モニター会議の開催報告

林野庁では、国有林野の管理経営に国民の皆様のご意見・ご提案を役立てるため、「国有林モニター制度」を設けています。

東北森林管理局では、令和4年4月から2年間の任期として管内5県にお住まいの47名の方に国有林モニターにご就任いただき、国有林野事業について理解を深めていただいた上でご意見・ご提案をいただいています。

こうした取組の一環として、令和6年2月22日（木曜日）、東北森林管理局において令和5年度国有林モニター会議を開催しました。

○概要

日時：令和6年2月22日（木曜日） 13時30分～16時00分

場所：東北森林管理局 大会議室

参加者：国有林モニター 19名、東北森林管理局職員 5名

○東北森林管理局の取組説明

はじめに東北森林管理局総務企画部長から挨拶した後、企画調整課長より東北森林管理局の概要及び取組を説明いたしました。

<説明内容>

- ・ 国有林野の現状、国有林野事業の組織体制、国民の森林（もり）としての管理経営
- ・ 森林を取り巻く状況（循環利用とSDGsとの関係、カーボンニュートラルへの貢献）
- ・ 森林・林業基本計画（森林資源の適正な管理・利用等の対応方向と国有林の取組）
- ・ 東北森林管理局の取組（基本計画の対応方向に沿った具体的な取組の例）



総務企画部長挨拶



企画調整課長より取組説明

○事前質問への回答

世界自然遺産である白神山地の保護管理の取組について、美林誘導プロジェクトの今後、森林環境譲与税の活用、林業の後継者を育成するための取組、木材市況の今後の見通しに関する事など、事前にいただいていた様々なご質問へ回答しました。

また、職員が入山する際の安全対策や装備についてのご質問もいただいていたことから、会議室内に実際の装備や携行品を展示しました。



職員が入山する際の装備

○意見交換

意見交換では、早生樹の活用や森林の相続、きのこ及びジビエの利用等についての様々なご質問やご意見をいただきました。

○2年間を通してのご感想・ご意見

2年間国有林モニターとして活動してこられたご感想やご意見を伺いました。

「現地見学会で見た蔵王のオオシラビソの被害には驚いた。まさに百聞は一見に如かずだと思った。」、「人材育成は国、県、自治体、企業、住民も含め官民一体で取り組む必要があると思っている。日本の林業が持続可能な産業として生き残るよう応援している。」、「人工林の仕組みやシカ対策など、様々な仕事をしていることが理解できた。」、「女性が元気に活躍しているが、蜂の注射器を持って歩くなど、大変な仕事と認識した。」、「今後も森を見守っていく気持ちを持ちたい。」などのご感想・ご意見をいただきました。

本会議でいただいたご意見・ご要望等については、今後の国有林野の管理経営に反映させるよう努めてまいりたいと考えています。



意見交換の様子